

# 令和3年度 決算の概要



詳しくは市ホームページ  
をご覧ください

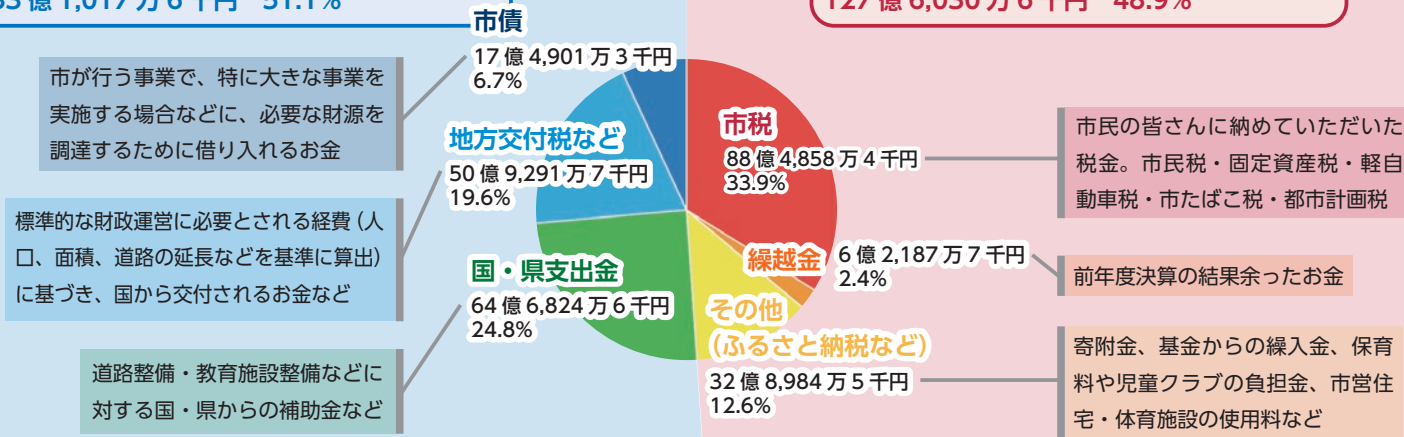
伊奈庁舎財政課（内線 2203）

歳入・歳出決算額は、250億円を越える決算額となりました。一般会計において、歳入で最も大きな割合を占めているのは市税で、決算額の33.9%を占めています。次いで国・県支出金となっており、これは新型コロナウイルス感染症対策事業の財源の増加が大きく影響しています。歳出では、子育て世帯やひとり親世帯など、対象を絞った新型コロナウイルス感染症対策を実施したことにより、民生費が全体の33.8%と、最も大きな割合を占めています。次いで総務費、教育費の順となっています。

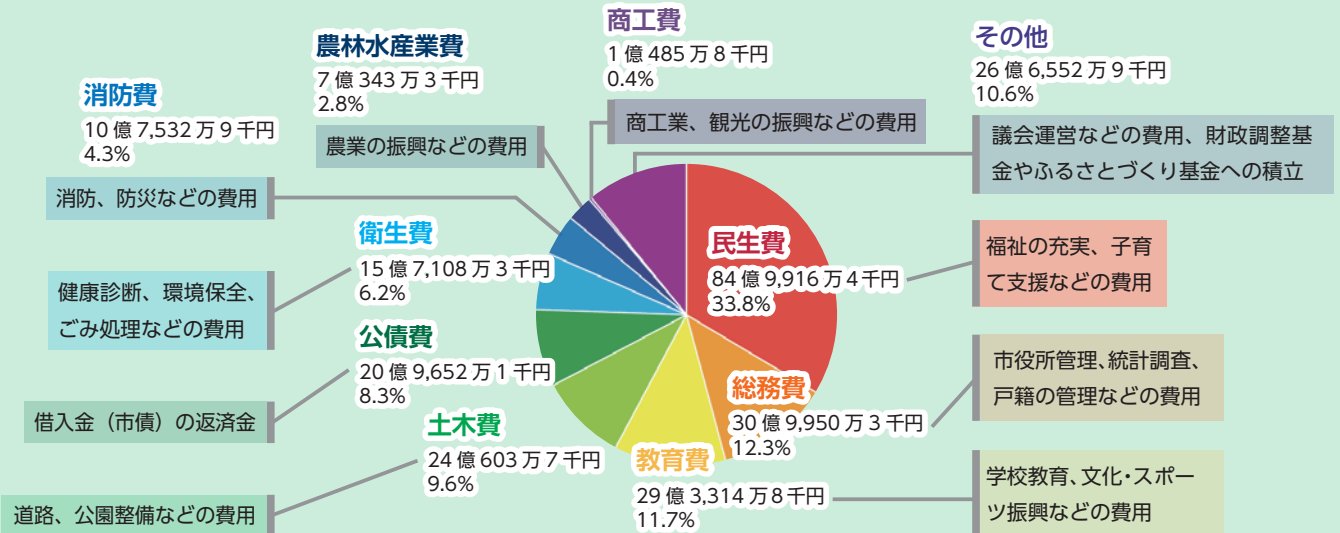
## 歳入 260億7,048万2千円 [前年比3.0%減]

**依存財源** (国や県から交付されるお金や借入金など)  
133億1,017万6千円 51.1%

**自主財源** (皆さんから納めていただいた税金など)  
127億6,030万6千円 48.9%



## 歳出 251億5,460万5千円 [前年比4.2%減]



### 財政健全化判断比率など

令和3年度の決算に基づく健全化判断比率・資金不足比率は次のとおりで、早期健全化基準を下回っています。

#### ■健全化判断比率

	実質赤字	連結実質赤字	実質公債費	将来負担
令和3年度	—	—	6.8	12.6
令和2年度	(12.92)	(17.92)	(25.0)	(350.0)
令和3年度	—	—	7.2	38.4
令和2年度	(12.99)	(17.99)	(25.0)	(350.0)

※「—」は赤字額がないことを表す  
※下段( )書きは、早期健全化基準

#### ■資金不足比率：資金不足となった会計(水道事業・下水道事業)はありません。

早期健全化基準：財政収支が不均衡な状況や財政状況が悪化した状況において、その財政の健全化を図るべき基準で、基準を上回ると「早期健全化団体」に指定される  
 実質赤字比率：一般会計などの赤字の程度を指標化したもの  
 連結実質赤字比率：全ての会計の赤字や黒字を合算し、赤字の程度を指標化したもの  
 実質公債費比率：借入金(地方債)の返済額などの大きさを指標化したもの  
 将来負担比率：借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担などの残高の程度を指標化したもの